

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成26年11月14日
【四半期会計期間】	第20期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	株式会社あみやき亭
【英訳名】	AMIYAKI TEI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 啓介
【本店の所在の場所】	愛知県春日井市如意申町五丁目12番地の8
【電話番号】	0568(32)8800
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 千々和 康
【最寄りの連絡場所】	愛知県春日井市如意申町五丁目12番地の8
【電話番号】	0568(32)8800
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 千々和 康
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第2四半期連結 累計期間	第20期 第2四半期連結 累計期間	第19期
会計期間	自平成25年 4月1日 至平成25年 9月30日	自平成26年 4月1日 至平成26年 9月30日	自平成25年 4月1日 至平成26年 3月31日
売上高 (百万円)	12,200	13,675	24,556
経常利益 (百万円)	1,448	1,562	2,755
四半期(当期)純利益 (百万円)	902	1,060	1,678
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	902	1,060	1,678
純資産額 (百万円)	13,573	15,100	14,211
総資産額 (百万円)	16,608	18,937	17,991
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	131.81	154.78	245.01
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	81.7	79.7	79.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,063	1,198	2,677
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	389	1,255	1,333
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	139	173	280
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	2,669	2,966	3,197

回次	第19期 第2四半期連結 会計期間	第20期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年 7月1日 至平成25年 9月30日	自平成26年 7月1日 至平成26年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	69.96	72.75

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式がないため記載しておりません。
4. 当社は平成25年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。第19期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策により、企業業績や雇用情勢の改善がみられ、景気回復基調にあります。夏場の天候不順や消費税率の引き上げによる駆け込み需要の反動に加え、ガソリン価格の高騰、輸入原材料の上昇などによる消費マインドの低下が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当業界におきましては、消費税増税の影響は総じて限定的で、外食需要は堅調に推移しましたが、円安などによる原材料価格の上昇並びに人員確保問題や人手不足を背景とした人件費関連コスト等の上昇など依然として取巻く経営環境は厳しい状況となっております。

このような環境の下、当社グループといたしましては、「お客様に喜んでいただき、選んでいただく店舗作り」を目指し、「食肉の専門集団」の強みであるカット技術を活かして価格据置で品質向上に努め、お客様にとって価値感・満足感のある商品を提供するなど他社との差別化を図り、既存店の強化を行ってまいりました。

店舗数につきましては、株式会社アクトグループの新規連結による12店舗に新規出店4店舗（あみやき亭三郷店、どんどん磐田店、ブラックホールセントラルロード店、すしまみれセントラルロード店）を加えた結果、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は212店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高13,675百万円（前年同期比12.1%増）、営業利益1,529百万円（前年同期比7.7%増）、経常利益1,562百万円（前年同期比7.9%増）、四半期純利益1,060百万円（前年同期比17.4%増）と増収増益となり、過去最高となりました。

また、株式会社あみやき亭単体の当第2四半期累計期間の業績は、売上高10,562百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益1,234百万円（前年同期比1.0%増）、経常利益1,281百万円（前年同期比0.4%増）、四半期純利益839百万円（前年同期比12.4%増）と増収増益となり、過去最高となりました。

#### < 焼肉事業 >

焼肉事業の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、3店舗新規出店した結果、137店舗となりました。内訳は、あみやき亭103店舗、どんどん14店舗、かるび家5店舗、スエヒロ館9店舗、ほるとん屋2店舗、ブラックホール3店舗、ほうらず1店舗であります。

当社が経営する「あみやき亭」では、品質の向上に徹底的にこだわり「お客様にとって価値感・満足感のある商品」の提供に努め、既存店強化に努めてまいりました。

また、「食肉の専門集団」である強みを活かした名古屋市場直送の新鮮な朝挽きホルモンをその日のうちにお客様へ提供する牛タンとホルモン専門店の「ほるとん屋」におきましては、引き続きお客様に満足感・価値感のあるものとなるよう更に商品の磨きこみを行っております。

株式会社スエヒロレストランシステムが経営する焼肉「スエヒロ館」につきましては、「食肉の専門集団」である強みを活かして「チェーン店価格」での商品を提供しております。

以上の結果、焼肉事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、10,497百万円（前年同期比7.3%増）となりました。

#### < 焼鳥事業 >

焼鳥事業の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、56店舗であります。

焼鳥事業は、当社が経営する「元祖やきとり家美濃路」であります。

焼鳥事業におきまして、以前より最優先事項として内部取り組みを行ってまいりましたが、その成果が出つつあります。引続き焼きの技術向上はもとより基本の徹底や接客・サービスのレベル向上に向けた社員教育の取り組みを行ってまいります。

以上の結果、焼鳥事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,875百万円（前年同期比0.0%減）となりました。

#### < その他の事業 >

その他の事業の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、1店舗新規出店した結果、19店舗であります。

内訳は、株式会社スエヒロレストランシステムが経営する、レストランの「スエヒロ館」6店舗、居酒屋「楽市」3店舗と株式会社アクトグループが経営する寿司業態の「すしまみれ」4店舗、ダイニング5店舗、イタリアンレストラン1店舗であります。

レストランの「スエヒロ館」につきましては、「食肉の専門集団」である当社グループの強みを活かした「100%国産ハンバーグ」「国産牛ステーキ」を提供するハンバーグ・ステーキの専門店として、引続き品質の向上に努めてまいりました。

居酒屋「楽市」につきましても、メニュー開発を行うとともに商品の品質向上やお客さまの立場に立った接客・サービスの向上に努めてまいりました。

また、寿司業態、ダイニング業態、イタリアン業態とも快適な空間で食事を楽しんで頂くことを目指し、改修・改装に取り組むとともに都心に新規出店いたしました。

以上の結果、その他の事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は1,301百万円（前年同期比139.3%増）となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して230百万円減少し、2,966百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### ( 営業活動によるキャッシュ・フロー )

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果獲得した資金は、1,198百万円（前年同期は1,063百万円の獲得）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益が1,506百万円となったこと等を反映したものであります。

### ( 投資活動によるキャッシュ・フロー )

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果使用した資金は、1,255百万円（前年同期は389百万円の使用）となりました。

これは主に、定期預金の預け入れによる支出が4,000百万円、定期預金の払い戻しによる収入が3,000百万円あったこと等を反映したものであります。

### ( 財務活動によるキャッシュ・フロー )

当第2四半期連結累計期間において、財務活動の結果使用した資金は、173百万円（前年同期は139百万円の使用）となりました。

これは主に、配当金の支払額が169百万円あったこと等を反映したものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

## (5) 財政状態の分析

### ( 資産の部 )

当第2四半期連結会計期間末の資産の内、流動資産は、現金及び預金の増加等により8,741百万円となり、前連結会計年度末と比較して、862百万円増加しました。

固定資産は主に、差入保証金の増加等により10,196百万円となり、前連結会計年度末と比較して、83百万円増加しました。

以上の結果、資産の部は、18,937百万円となり、前連結会計年度末と比較して、946百万円の増加となりました。

### ( 負債の部 )

当第2四半期連結会計期間末の負債の内、流動負債は、設備未払金の増加等により3,343百万円となり、前連結会計年度末と比較して、38百万円増加しました。

固定負債は主に、資産除去債務の増加等により、493百万円となり、前連結会計年度末と比較して、18百万円増加しました。

以上の結果、負債の部は、3,837百万円となり、前連結会計年度末と比較して、57百万円の増加となりました。

### ( 純資産の部 )

当第2四半期連結会計期間末の純資産の部は、利益剰余金の増加等により、15,100百万円となり、前連結会計年度末と比較して、888百万円の増加となりました。

以上の結果、自己資本比率は、79.7%となり前連結会計年度末と比較して、0.7ポイント増加となりました。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,400,000
計	14,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,848,800	6,848,800	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式100株
計	6,848,800	6,848,800	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	-	6,848,800	-	2,473	-	2,426

(6)【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
チャレンジブイコーポ レーション有限会社	愛知県小牧市桃ヶ丘2丁目10番2号	2,499,000	36.49
日本トラスティ・サー ビス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	638,800	9.33
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	389,700	5.69
米久株式会社	静岡県沼津市岡宮寺林1259番地	240,000	3.50
佐藤 啓介	愛知県小牧市	205,000	2.99
野村信託銀行株式会社 (投信口)	東京都千代田区大手町2丁目2-2	198,400	2.90
佐藤 きい	愛知県小牧市	105,000	1.53
BNYML-NON T REATY ACCO UNT (常任代理人株式会社 三菱東京UFJ銀行)	VERTIGO BUILDING - POLARI S 2-4 RUE EUGENE RUPPERT L - 2453 LUXEMBOURG GRAND DU CHY OF LUXEMBOUR G (東京都千代田区丸の内2丁目7- 1)	87,800	1.28
資産管理サービス信託 銀行株式会社 (証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海トリトンスクエアア ワーズ	82,400	1.20
BNP PARIBA S SECURITI ES SERVICE S LUXEMBOU RG/JASDEC/ FIM/LUXEMB OURG FUNDS (常任代理人香港上海 銀行東京支店)	33 RUE DE GASPERICH, L - 5826 HOWALD - HESPERANGE, LU XEMBOUR G (東京都 中央区日本橋3丁目11-1)	80,000	1.17
計	-	4,526,100	66.09

(注) 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	638,800株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	389,700株
野村信託銀行株式会社(投信口)	198,400株
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	82,400株

(7) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式6,848,400	68,484	-
単元未満株式	400	-	-
発行済株式総数	6,848,800	-	-
総株主の議決権	-	68,484	-

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株式 数(株)	他人名義所有株式 数(株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,124	7,875
預け金	72	91
売掛金	1	2
商品及び製品	51	53
原材料及び貯蔵品	196	186
繰延税金資産	183	198
その他	247	334
流動資産合計	7,878	8,741
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,656	4,607
構築物(純額)	327	317
機械及び装置(純額)	167	183
車両運搬具(純額)	17	14
工具、器具及び備品(純額)	158	148
土地	1,336	1,336
建設仮勘定	2	58
有形固定資産合計	6,667	6,666
無形固定資産		
ソフトウェア	1	1
のれん	679	656
その他	42	40
無形固定資産合計	723	699
投資その他の資産		
投資有価証券	3	4
長期貸付金	264	253
繰延税金資産	333	346
差入保証金	1,271	1,365
投資不動産	283	283
その他	564	577
投資その他の資産合計	2,722	2,830
固定資産合計	10,113	10,196
資産合計	17,991	18,937

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,042	842
未払金及び未払費用	1,056	1,244
未払法人税等	689	543
賞与引当金	131	135
役員賞与引当金	-	15
株主優待引当金	3	7
ポイント引当金	38	51
資産除去債務	2	-
その他	340	504
流動負債合計	3,305	3,343
固定負債		
負ののれん	0	0
繰延税金負債	24	29
資産除去債務	309	321
その他	140	141
固定負債合計	474	493
負債合計	3,779	3,837
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,426	2,426
利益剰余金	9,310	10,198
株主資本合計	14,210	15,099
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	1
その他の包括利益累計額合計	0	1
純資産合計	14,211	15,100
負債純資産合計	17,991	18,937

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月30日)
売上高	12,200	13,675
売上原価	4,384	5,025
売上総利益	7,815	8,650
販売費及び一般管理費	6,395	7,120
営業利益	1,420	1,529
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	0	0
受取賃貸料	5	5
協賛金収入	9	18
その他	4	3
営業外収益合計	28	34
営業外費用		
不動産賃貸費用	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	1,448	1,562
特別利益		
受取保険金	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	7	4
減損損失	12	52
保険解約損	4	-
その他	3	-
特別損失合計	26	56
税金等調整前四半期純利益	1,422	1,506
法人税、住民税及び事業税	533	469
法人税等調整額	13	22
法人税等合計	519	446
少数株主損益調整前四半期純利益	902	1,060
四半期純利益	902	1,060

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	902	1,060
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	0
その他の包括利益合計	0	0
四半期包括利益	902	1,060
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	902	1,060

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,422	1,506
減価償却費	366	360
のれん償却額	-	22
賞与引当金の増減額(は減少)	22	4
役員賞与引当金の増減額(は減少)	12	15
株主優待引当金の増減額(は減少)	5	4
ポイント引当金の増減額(は減少)	2	13
有形固定資産除却損	7	4
受取利息及び受取配当金	8	6
減損損失	12	52
売上債権の増減額(は増加)	1	0
たな卸資産の増減額(は増加)	20	8
その他の流動資産の増減額(は増加)	39	73
仕入債務の増減額(は減少)	169	200
未払金及び未払費用の増減額(は減少)	92	70
未払消費税等の増減額(は減少)	17	123
その他の流動負債の増減額(は減少)	13	40
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(は減少)	24	1
その他	13	4
小計	1,515	1,808
利息及び配当金の受取額	5	3
法人税等の支払額	457	613
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,063	1,198
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	3,000	4,000
定期預金の払戻による収入	3,000	3,000
有形固定資産の取得による支出	360	139
有形固定資産の除却による支出	14	4
無形固定資産の取得による支出	2	0
差入保証金の差入による支出	17	97
差入保証金の回収による収入	6	3
貸付金の回収による収入	0	0
その他	0	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	389	1,255
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	4	4
配当金の支払額	135	169
財務活動によるキャッシュ・フロー	139	173
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	535	230
現金及び現金同等物の期首残高	2,134	3,197
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,669	2,966

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち、主要な費用及び金額は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
給与手当	3,045百万円	3,333百万円
賞与引当金繰入額	104	125
役員賞与引当金繰入額	12	15

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金	7,602百万円	7,875百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	5,000	5,000
その他(預け金)	67	91
現金及び現金同等物	2,669	2,966

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月12日 定時株主総会	普通株式	136	2,000	平成25年3月31日	平成25年6月13日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月1日 取締役会	普通株式	136	2,000	平成25年9月30日	平成25年12月10日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月11日 定時株主総会	普通株式	171	25	平成26年3月31日	平成26年6月12日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月1日 取締役会	普通株式	171	25	平成26年9月30日	平成26年12月10日	利益剰余金

(注) 当社は、平成25年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	焼肉事業	焼鳥事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,780	1,875	11,656	543	12,200
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	9,780	1,875	11,656	543	12,200
セグメント利益	1,315	66	1,381	44	1,425

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、居酒屋事業及びレストラン事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,381
「その他」の区分の利益	44
全社費用(注)	5
四半期連結損益計算書の営業利益	1,420

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。



当第2四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	焼肉事業	焼鳥事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,497	1,875	12,373	1,301	13,675
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	10,497	1,875	12,373	1,301	13,675
セグメント利益	1,333	110	1,444	110	1,555

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、居酒屋事業及びレストラン事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	1,444
「その他」の区分の利益	110
全社費用（注）	25
四半期連結損益計算書の営業利益	1,529

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	131円81銭	154円78銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	902	1,060
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	902	1,060
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,848	6,848

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当社は、平成25年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

中間配当に関する事項

平成26年10月1日開催の取締役会において、当期中間配当につき、次のとおり決議しました。

中間配当による配当金の総額 171百万円

1株当たりの金額 25円00銭

支払請求の効力発生日および支払開始日 平成26年12月10日

(注) 1.平成26年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

2.当社は、平成25年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月13日

株式会社あみやき亭

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 奥谷 浩之 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 楠元 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社あみやき亭の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社あみやき亭及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。